TADOKU JUNIOR　イソップ物語　★★★☆☆ ふつう　304語

The Lark and Her Young Ones

ヒバリと子どもたち

Aesop（1919年の本）　**原文そのまま**　朗読：A LibriVox Volunteer

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　小麦畑に巣を作ったヒバリの親子。お百しょうさんの話を聞いて、子どもたちは心配になりますが、お母さんはおちついていて……。



A Lark made her nest in a field of young wheat. As the days passed, the wheat stalks grew tall and the young birds, too, grew in strength. Then one day, when the ripe golden grain waved in the breeze, the Farmer and his son came into the field.

"This wheat is now ready for reaping," said the Farmer. "We must call in our neighbors and friends to help us harvest it."

The young Larks in their nest close by were much frightened, for they knew they would be in great danger if they did not leave the nest before the reapers came.

When the Mother Lark returned with food for them, they told her what they had heard.

"Do not be frightened, children," said the Mother Lark. "If the Farmer said he would call in his neighbors and friends to help him do his work, this wheat will not be reaped for a while yet."

A few days later, the wheat was so ripe, that when the wind shook the stalks, a hail of wheat grains came rustling down on the young Larks' heads.

"If this wheat is not harvested at once," said the Farmer, "we shall lose half the crop. We cannot wait any longer for help from our friends. Tomorrow we must set to work, ourselves."

When the young Larks told their mother what they had heard that day, she said:

"Then we must be off at once. When a man decides to do his own work and not depend on any one else, then you may be sure there will be no more delay."

There was much fluttering and trying out of wings that afternoon, and at sunrise next day, when the Farmer and his son cut down the grain, they found an empty nest.

> **Self-help is the best help.**

一羽のヒバリが、まだ青い小麦の畑に巣を作りました。日がたつにつれて、小麦のくきは高くのび、ひなたちもだんだん大きく強くなりました。ある日、実った金色の小麦がそよ風にゆれているころ、お百しょうさんとむすこが畑にやってきました。

「この小麦は、もうかり取れるな」とお百しょうさんは言いました。「近所の人や友だちをよんで、とり入れを手つだってもらわなくては。」

すぐそばの巣にいたヒバリの子どもたちは、とてもこわくなりました。かり取る人たちが来る前に巣をはなれないと、とてもあぶないとわかっていたからです。お母さんヒバリが食べ物を持って帰ってくると、子どもたちは聞いたことを話しました。

「こわがらなくていいのよ、ぼうやたち」とお母さんヒバリは言いました。「お百しょうさんが、近所の人や友だちをよんで仕事を手つだってもらうと言ったのなら、この小麦はまだしばらくはかり取られないわ。」

何日かたつと、小麦はすっかり実って、風がくきをゆらすたびに、小麦のつぶがかさかさと、ヒバリの子どもたちの頭にあられのようにふりかかってきました。

「この小麦をすぐにとり入れないと」とお百しょうさんは言いました。「半分はだめになってしまうぞ。もう友だちの手つだいをまってはいられない。明日、自分たちで仕事にとりかかろう。」

その日に聞いたことを子どもたちが話すと、お母さんヒバリは言いました。

「それなら、すぐに出かけなくては。人が、だれにもたよらずに自分で仕事をしようと決めたら、もうぐずぐずすることはないのよ。」

その日の午後、子どもたちはいっしょうけんめいはばたいて、とぶれんしゅうをしました。次の日の朝、日がのぼるころ、お百しょうさんとむすこが小麦をかり取ると、そこにはからっぽの巣がのこっていました。

> **自分のことは自分でするのが、一番の助けです。**

たんご と クイズ ヒバリと子どもたち

Lark ヒバリ	**nest** 巣	**wheat** 小麦
Farmer お百しょうさん	**son** むすこ	**wings** つばさ
sunrise 日の出		

Q1 ヒバリはどこに巣を作った？

① 小麦の畑　② 高い木の上　③ 家のやね

Q2 はじめにお百しょうさんの話を聞いたとき、お母さんヒバリはどう言った？

①「すぐににげましょう」　②「こわがらなくていいのよ」　③「お百しょうさんにたのみましょう」

Q3 お母さんヒバリが「すぐに出かけなくては」と言ったのは、お百しょうさんがなんと言ったとき？

①「友だちをよぼう」　②「小麦を売ろう」　③「明日、自分たちでやろう」

こたえ

Q1 ① ヒバリは、まだ青い小麦の畑に巣を作りました。

Q2 ② 近所の人や友だちにたのむのなら、まだしばらくはかり取られない、とお母さんは考えたのです。

Q3 ③ お百しょうさんが、自分たちで仕事にとりかかると決めたので、もうすぐかり取りがはじまるとわかったのです。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典 英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #19994（Aesop、1919年）。パブリックドメイン。
挿絵：Milo Winter（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：A LibriVox Volunteer（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。